

6. 学術情報センター

学術情報センター長	南沢 享 (細胞生理学講座)	(平成28年4月から)
学術情報センター図書館国領分館長	香月 毅史 (精神看護学)	(平成28年4月から)
学術情報センター標本館委員会議長	橋本 尚詞 (解剖学講座)	(平成20年4月から)
学術情報センター国際交流センター長	福田 国彦 (放射線医学講座)	(平成27年4月から)

1) 平成28年度統計 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(1) 図書館

① 蔵書冊数	264,083冊
② 現在受入雑誌数	704種 (和600種、洋104種)
③ 電子ジャーナル提供数	6,326種
④ 館外貸出冊数	8,819冊
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出2,245件 借受1,947件
⑥ 複写サービス	54,716枚 (代行複写、相互貸借 (他館への提供)、 附属病院へのFAX送信、セルフコピーの合計)
⑦ 情報検索サービス	88,390件 (代行とセルフサービスの合計)

(2) 国領分館

① 蔵書冊数	91,375冊
② 現在受入雑誌数	354種 (和298種、洋56種)
③ 館外貸出冊数	9,217冊 (視聴覚資料含む)
④ 複写サービス	639件 (西新橋・葛飾・柏へのFAX送信)

(3) 標本館

① 所蔵標本数	マクロ標本	1,568点
	顕微鏡標本	2,549点
② 所蔵視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,894セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mmフィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	71セット
	語学プログラム	206セット
	その他	79セット
③ 見学者数		1,005名 (学内94名、学外911名)

(4) 史料室

① 所蔵史料	3,131点
② 見学者数	181名 (学内47名、学外134名)
③ 調査・回答	233件 (学内162件、学外71件)

(5) 写真室

① 撮影・スライド作成	92件 (3,435枚)
② レントゲンフィルム複製	1件 (2枚)
③ ビデオ編集	52件 (274時間)
④ カラープリント出力 (ポスター作成含む)	691件 (12,935枚)
⑤ 35mmスライドのデジタル化	17件 (820枚)

(6) 国際交流センター

① 海外選抜実習	派遣14名 (男子6名、女子8名) ※協定校への派遣のみ (米国5、英国、台湾各4、ドイツ2) ※1名は米国と英国 受入102名 (男子44名、女子58名)
----------	--

(英国23、ニュージーランド10、台湾、香港、フィリピン、オーストラリア各8、ドイツ7、タイ、マレーシア各5、インドネシア4、中国3、ジンバブエ2、他10)

(消化器外科17、救急科15、放射線科13、産婦人科11、麻酔科9、小児・血管外科、脳神経外科各7、皮膚科、小児科、呼吸器・乳腺・内分泌外科各6、腎臓・高血圧内科、消化器・肝臓内科、形成外科各5、整形外科4、糖尿病・代謝・内分泌内科3、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、内視鏡科、第三病院看護部各2、他4)

② International Cafe (海外からの選択実習生と本学学生、教職員との交流会)

開催：52回、参加者：のべ844名

③ 医学科学生の英語 OSCE

開催：1年生 2回、4・5年生 4回

2) 主な事項

(1) 医学部学生および大学院生の演習の担当

医学科1年生の「情報検索演習」、2年生の「医学総論」、医学科3年生「医学統計学Ⅱ演習」、看護学科1年生の「総合演習」、看護学科3年生の「研究方法論：文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーション、大学院医学研究科看護学専攻修士課程1年生への演習を担当した。

(2) 教職員等を対象とした情報検索演習

教育センターによる附属4病院の在職看護師を対象とした「エデュケーションナース研修」(9月5日)と「看護監督者研修」(12月6日)、東京慈恵会による学外の看護教育関係者を対象とした「教務主任養成講習会」(6月23日)で情報検索演習を担当した。また、教職員を対象としたデータベース講習会を2回実施し、延べ39名の参加があった。

(3) ネットワークを介した情報提供

電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス(Auto Alertサービス)を引き続き実施している。また、新聞4紙から医療および大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービス(平成16年12月開始)も継続した。

(4) 学術リポジトリの構築

学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開するためのシステムである学術リポジトリの運用を担当している。『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『教育・研究年報』、『Research Activities』の最新の内容を登録し、インターネット経由で参照できるようにした。また、学事課との協力により学位論文要旨に加え、主論文についても学術リポジトリによるインターネット公開を開始した。なお、学位規則変更にもともなう学位論文の電子公開に関して、転載許諾手続きについての問い合わせ先として編集室が指定された。平成28年度の来館・電話・メール等での対応は17件であった。

平成28年度の学術リポジトリへの登録件数は367件で、利用状況は閲覧1,134,787件であった。

(5) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2015(第35号)』および『Research Activities 2015』の編集

両年報の編集作業を担当した(両年報とも3月1日発行)。

(6) 教員評価システム管理委員会に関する取り組み

教員評価システムがリプレースされることとなったため、教員・医師人事室、システム課と協力して業者との打合せを進め、業績データの管理に関する部分のシステム仕様をまとめた。基本部分のリプレースは終了したが、本学での使用の事情に応じた調整が必要となり、実運用は次年度の課題となった。

(7) 医学論文書きかた講習会の開催

Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による

以下の講習会の開催を担当した。これらの講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。

- ・「How to get acceptance.-Corresponding author と Associate Editor の立場から」（5月17日）（参加95名）
小嶋聡一客員教授（臨床検査医学講座）
- ・「医学英語論文の書き方ー自験例を中心に解説するー」（5月19日）（参加77名）
浦島充佳教授（総合医科学研究センター分子疫学研究部）
- ・「How to write abstracts」（5月26日）（参加71名）
岡崎真雄教授（学術情報センター医学英語研究室）
- ・「外国特許出願を意識した論文作成」（5月31日）（参加64名）
小原平教授、染谷悦男非常勤講師（英語研究室）
（開催時間は、いずれも18時～19時30分）

(8) 総合展示の開催

以下4テーマの展示の提供をいただき、1月23日（月）～2月3日（金）に大学1号館ロビー、高木会館ロビーにて開催した。

「私のがん研究のあゆみ」

山田尚教授（基盤研究施設（分子遺伝学））

「全人的医学・医療におけるCPC（clinicopathological conference）の意義」

酒田昭彦教授（病理学講座・葛飾医療センター 病院病理部）

「生活習慣病発症要因としてのマグネシウム不足の重要性～2型糖尿病・メタボリックシンドロームを中心に～」

横田邦信教授（医療保険指導室）

「私の研究人生 DSS腸炎からピロリ菌、腸内細菌学へ」

大草敏史教授（内科学講座（消化器・肝臓内科）・柏病院 消化器・肝臓内科）

(9) 教材・研究資料の作成支援

学内教職員・学生、同窓生を対象に、静止画・動画の撮影、画像データのデジタル編集、ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化の各サービスを実施した。

(10) レントゲンフィルムの複製

教育・研究用、病院保管用の資料作成、他病院・関連機関への情報提供のためのレントゲンフィルム複製の業務を担当した。なお、本業務は使用機器のサポート及び消耗品販売の中止に伴い、平成28年度末をもって終了となった。

(11) 広報活動支援業務

学内行事および広報用の写真撮影、画像データの保管・提供を担当した。

(12) リモートアクセスサービスの提供

大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外（自宅や派遣先）からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」（平成21年度開始）の利用者登録とサポート作業を行った。平成28年度の新規登録者は352名で、平成28年度末までに利用登録者は2,525名となった。

(13) 「東京慈恵会医科大学130年史（平成23年度発行）」関連の業務

掲載内容に関する問い合わせへの対応、130年記念事業寄付者へ送付確認作業を担当した。

(14) 西新橋再整備計画「図書・講堂スモールワーキンググループ（SWG）」への参加

平成26年度から引き続き図書・講堂SWGに参加し、図書館移転計画案の作成に取り組んだ（再整備統括会議にて、高木会館は耐震対策と減築を行い存続することが決まり、図書館は移転せず、標本館はF棟へ移転することになった）。

(15) 史料室の展示資料の燻蒸・修理、展示ケースの清拭

史料室の展示資料にカビの発生が確認され、専門業者による燻蒸処理と修理、展示ケースの清拭作業を行った。

- (16) 海外からの選択実習生の受入れ
海外医科大学からの選択実習生の受入れは、平成28年4月～平成29年3月の期間で102名(男子学生44名、女子学生58名)であった。なお、毎週月曜日に選択実習生と本学学生、教職員との交流会(International Café)を開催した。
- (17) 医学科学生の英語OSCEの実施
医学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語OSCEを実施した。
- ・オープンキャンパス英語OSCE
8月12日(1年生8名参加) ※講義・練習: 8月8日・8月10日
 - ・海外臨床実習へ向けての英語OSCEー第1回セッション
11月5日(4年生3名、5年生11名参加) ※講義・練習: 10月29日
11月26日(4年生2名、5年生12名参加)
 - ・海外臨床実習へ向けての英語OSCEー第2回セッション
12月10日(4年生5名、5年生14名参加) ※講義・練習: 12月3日
12月17日(4年生4名、5年生11名参加)
- (18) 海外実習・留学支援セミナーの開催
平成28年6月10日(金)に第2回海外実習・留学支援セミナーを開催した。
- (19) 選択実習(国外)報告会、医学科海外選択実習報告会の開催
平成28年9月17日に平成28年度選択実習(国外)報告会を開催した。また、10月8日に平成28年度医学科海外選択実習報告会を行った。
- (20) 慈恵-Mayo Clinic ジョイントシンポジウムの開催
学祖高木兼寛先生が1906年に米国ミネソタ州ロチェスターのMayo Clinicを訪問してから110周年を迎えたことを記念して、平成28年9月30日にMayo Clinicから3名の講演者をお迎えしてシンポジウムを開催した。(学内外からの参加101名)
- (21) Dr. Mark H. Swartz 特別講演会の開催
米国の医学教育(問診・身体診察)の分野で著名なDr. Mark H. Swartzの来日を機会として、救急医学講座と国際交流センターの共催により平成29年3月15日に特別講演会"The Art of Interviewing"を開催した。(学内外からの参加56名)
- (22) 協定校の増加
ハワイ大学(University of Hawai'i)とソウル大学(Seoul National University)との間で新たに協定を結んだ。
- (23) 奨学金、助成金の支給
海外での学習、発表等に対する奨学金や助成金の支給に関する業務を担当した。
- ・宮本幸夫を応援する会による海外派遣助成 前期8名100万円 後期4名50万円
申込者から国際交流センター運営委員会が選考し、教授会議に報告の上、学長が決定した。
 - ・学外研究員 平成26年度選考者1名153万円(3年目)、平成27年度選考者1名365万円(2年目)、平成28年度選考者1名212万円(1年目)
推薦された候補者から国際交流センター運営委員会が選考し、教授会議に報告の上、学長が決定した。
 - ・慈恵医師会海外選択実習奨学金 8名160万円
希望者から国際交流センター運営委員会が選考し、教学委員会に推薦した。教学委員会は支給者を決定し、教授会議に報告した。
 - ・独立行政法人日本学生支援機構 平成28年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)
11名94万円(派遣) 9名72万円(受入)
協定校での選択実習希望学生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した(協定派遣)。また、協定校からの選択実習生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した(協定受入)。